

令和元年5月25日

於：仙台国際センター 展示棟
会議室4

座長：成瀬桂子先生
安孫子亜津子先生

第62回日本糖尿病学会年次学術集会

シンポジウム24

ジェンダーフリーな働き方から糖尿病診療を考える

糖尿病診療と研究での男女の活躍

～当医局での現状を踏まえて～

愛知医科大学医学部内科学講座 糖尿病内科

愛知医科大学病院 糖尿病センター

神谷英紀、中村二郎

COI 開示

発表者名：神谷英紀、中村二郎

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などとして、

顧問：なし

講演料：MSD(株)、小野薬品工業(株)、サノフィ(株)、アストラゼネカ(株)、アステラス製薬(株)、日本イーライリリー(株)
ノバルティスファーマ(株)、大日本住友製薬(株)、日本ベーリンガーインゲルハイム(株)、第一三共(株)
武田薬品工業(株)、ノボノルディスクファーマ(株)

受託研究費・治験など：イーピーエス(株)、キッセイ薬品工業(株)、日本ベーリンガーインゲルハイム(株)

奨学寄附金：アステラス製薬(株)、MSD(株)、小野薬品工業(株)、サノフィ(株)、第一三共(株)、大日本住友製薬(株)
武田薬品工業(株)、田辺三菱製薬(株)、日本イーライリリー(株)、日本たばこ産業(株)
ノバルティスファーマ(株)、ノボノルディスクファーマ(株)、ファイザー(株)

イクボスとイクメン

イクボス

「イクボス」とは、職場で共に働く部下・スタッフのワークライフバランス(仕事と生活の両立)を考え、その人のキャリアと人生を応援しながら、組織の業績も結果を出しつつ、自らも仕事と私生活を楽しむことができる上司(経営者・管理職)のことを指します(対象は男性管理職に限らず、増えるであろう女性管理職も)。

Fathering Japan イクボスプロジェクトより

イクメン

イクメンはイケメンから派生した語である。イケメンとは魅力的であることを表す俗語「イケてる」と顔立ちを指す「面」の合成語で、マスメディアを通じて2000年代以降に若者言葉として普及した。イクメンの語は、この「イケメン」の肯定的な語感を踏襲し、「イケメン」の「イケ」を養育の「育」に置き換えた合成語である。マスメディアの主婦向け情報番組などが、子育てに熱心な男性を現代的な父親像として定位する意図で用いたことから普及した。

Wikipediaより

愛知医科大学講座別の男女の割合

平成30年7月現在

	診療科等名	男	女	計	女性割合
1	消化管内科	22	8	30	27%
2	肝胆膵内科	10	2	12	17%
3	循環器内科	21	3	24	13%
4	呼吸器・アレルギー内科	10	2	12	17%
5	内分泌・代謝内科	3	2	5	40%
6	糖尿病内科	10	14	24	58%
7	神経内科	7	5	12	42%
8	腎臓・リウマチ膠原病内科	12	7	19	37%
9	血液内科	10	4	14	29%
10	精神科学	14	9	23	39%
11	小児科学	13	1	14	7%
12	消化器外科	11	1	12	8%
13	心臓外科	4	1	5	20%
14	血管外科	6	0	6	0%
15	呼吸器外科	4	2	6	33%
16	乳腺・内分泌外科	3	4	7	57%
17	腎臓外科	3	0	3	0%
18	外科	3	4	7	57%
19	脳神経外科	8	0	8	0%
20	整形外科	16	2	18	11%
21	皮膚科学	9	10	19	53%
22	泌尿器科学	10	1	11	9%
23	眼科学	10	5	15	33%
24	耳鼻咽喉科学	13	3	16	19%
25	産婦人科学	9	8	17	47%
26	放射線医学	12	9	21	43%
27	麻酔科学	16	21	37	57%
28	眼形成・眼窩・涙道外科	3	1	4	25%
29	総合診療科	2	1	3	33%

総計

361人 151人 512人 29.5%

糖尿病内科(センター)の医局員の組成

令和元年5月現在

	男	女	計	女性の割合
教官	7人	0人	7人	0%
医員助教(6年目以上)	7人	9人	16人	56.3%
専修医(3~5年目)	2人	3人	5人	60%

女性医師:12名中
既婚女性:10名
育児中女性:8名
育休中女性:3名

・育児中女性8名の中で時短勤務をしているのは1名。

・育休は約1年を取り、職場復帰後約2か月程度で時短(24時間/週)からフルタイムに戻るケースが多い。

愛知医科大学(病院)のサポート

アイキッズハウス: 月極保育(7時30分～18時30分)
延長保育(18時30分～21時30分)
一時保育(7時30分～18時30分)
夜間保育(15時30分～翌11時)
病児保育未

愛知医科大学(病院)のサポート

男女共同参画プロジェクト委員会

委員長:春日井邦夫教授

定期的な会議

時短勤務申請の審査

男性育休取得の推奨

男女共同参画にかかわる講演会の開催など

愛知医科大学
キャリア教育講演会

医学生の期待から男女共同参画、ワークライフバランスについて理解しておくことを目的として、キャリア教育講演会を開催します。
学生・教職員の方々は是非ご参加ください。

日時:平成30年11月27日(火) 17:30~19:00
場所:愛知医科大学 大学本部 204 講義室(大学本部2階)
対象:学生、教職員

講演1 17:35~17:55
「卒後15年までのキャリア」
講師 高阪 絢子 先生(乳腺・内分泌外科)

講演2 17:55~18:15
「女性心臓外科医?奮闘記」
講師 杉山 佳代 先生(心臓外科)

講演3 18:15~18:35
「赤ちゃん連れ夫妻、愛知医大で働く」
講師 田口宗太郎 先生(脳卒中センター)

フリーディスカッション 18:35~18:55

主催 男女共同参画プロジェクト委員会
(委員長 春日井邦夫教授・副学長)

連絡先 総務広報課 高橋 龍(11254)



糖尿病内科(センター)の臨床業務

- 病院業務** 外来:4診(大学)+1診(メディカルクリニック)
病棟:主科20名前後:3人主治医制
副科100名前後:1-2名で担当
学外業務:週2-3コマの代務
- 時間外業務** 当直:月2-3回程度
夜間・休日待機:月2-3回程度
- 教育** 研修医教育
学生教育:ポリクリ・講義
- 医局業務** 学会発表・研究発表
症例カンファレンス:週1回
医局会+抄読会:4月から医局会の時間を変更

育児中女性の業務

病院業務

外来：原則1コマを担当

病棟：主科も副科も共に主治医として担当

学外業務：週2-3コマの代務

時間外業務

当直：免除(病院全体)

夜間・休日待機：月に一度日勤帯の休日待機

長期休暇中に一度日勤帯の待機

教育

研修医教育：積極的に関与

学生教育：積極的に関与

医局業務

学会発表・研究発表：学会時に留守番を依頼

カンファレンス：週1回

医局会＋抄読会：4月から医局会の時間を変更

糖尿病内科(センター)の研究

大学院生:

9名(男性4名、女性5名)

全員社会人大学

全員基礎研究を推進

女性5名の中で、2人は育児をしながら入学、2人は在学中に休学し妊娠・出産

女性一人は、現在海外留学中

非大学院生(教官除く):

14名(男性6名、女性8名)

女性8名の中で、2人は育児中(1人はフルタイム・1人は時短勤務)、3人は育休中、2人は新規入局者
臨床研究に積極的に関与している

糖尿病内科診療と研究

教官側の責務

内科認定医・専門医および糖尿病専門医を取得(最低条件)

糖尿病指導医を取得(強く推奨)

全ての入局者に学会発表だけでなく、論文作成(学位取得を目指す)

医局員への期待

学生および研修医の教育から勧誘

→ママさん医師の貢献は大

若手医局員の教育

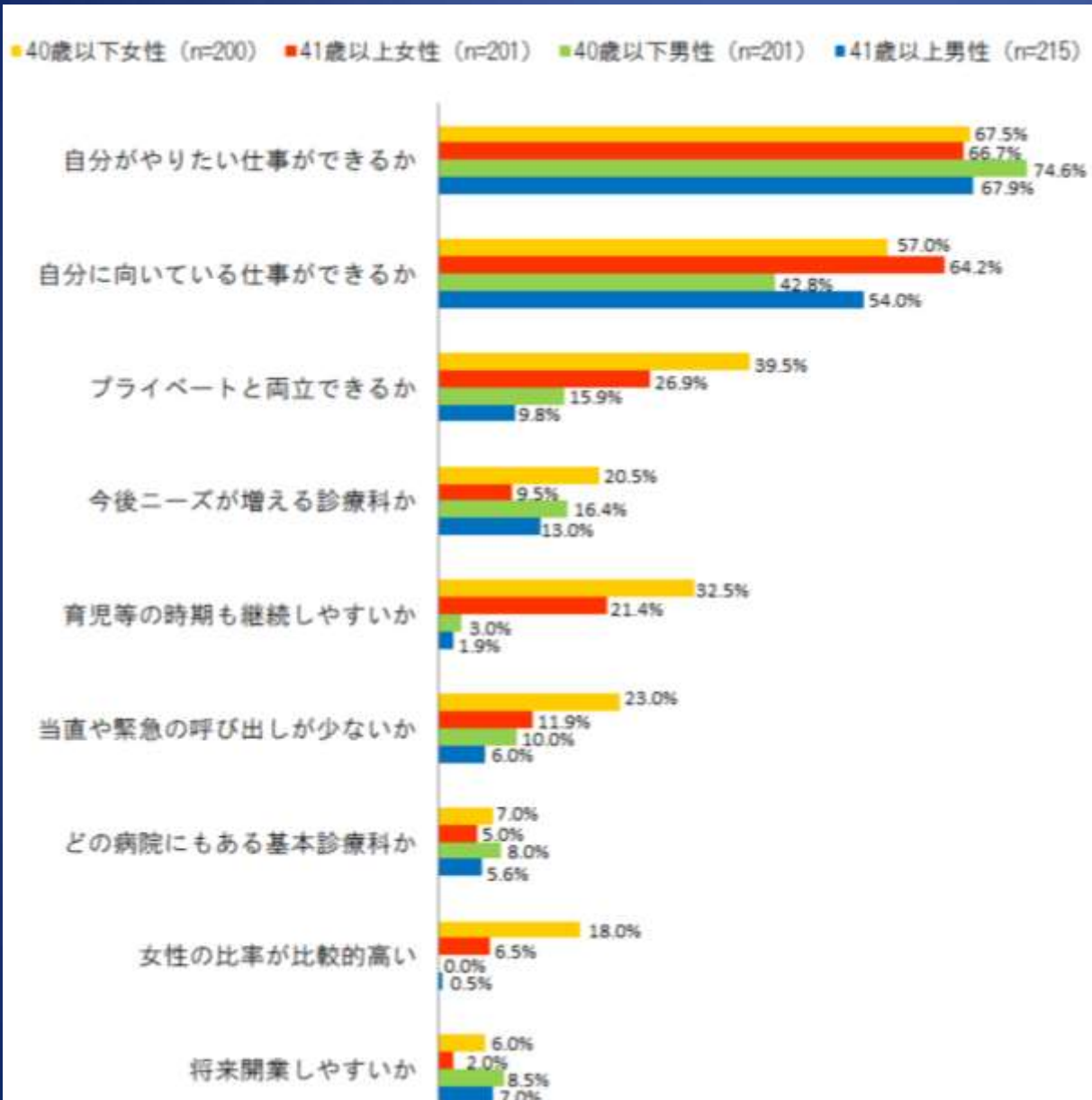
研究(基礎および臨床)の遂行

子育てが理由で、勤務状況が変わりましたか？

- 休職、勤務体系ともに変更あり
- 休職の経験あり
- 勤務体系変更の経験あり
- 退職の経験あり
- 左記のいずれでもない



診療科を選ぶ際に重視した点は何ですか【複数選択可】

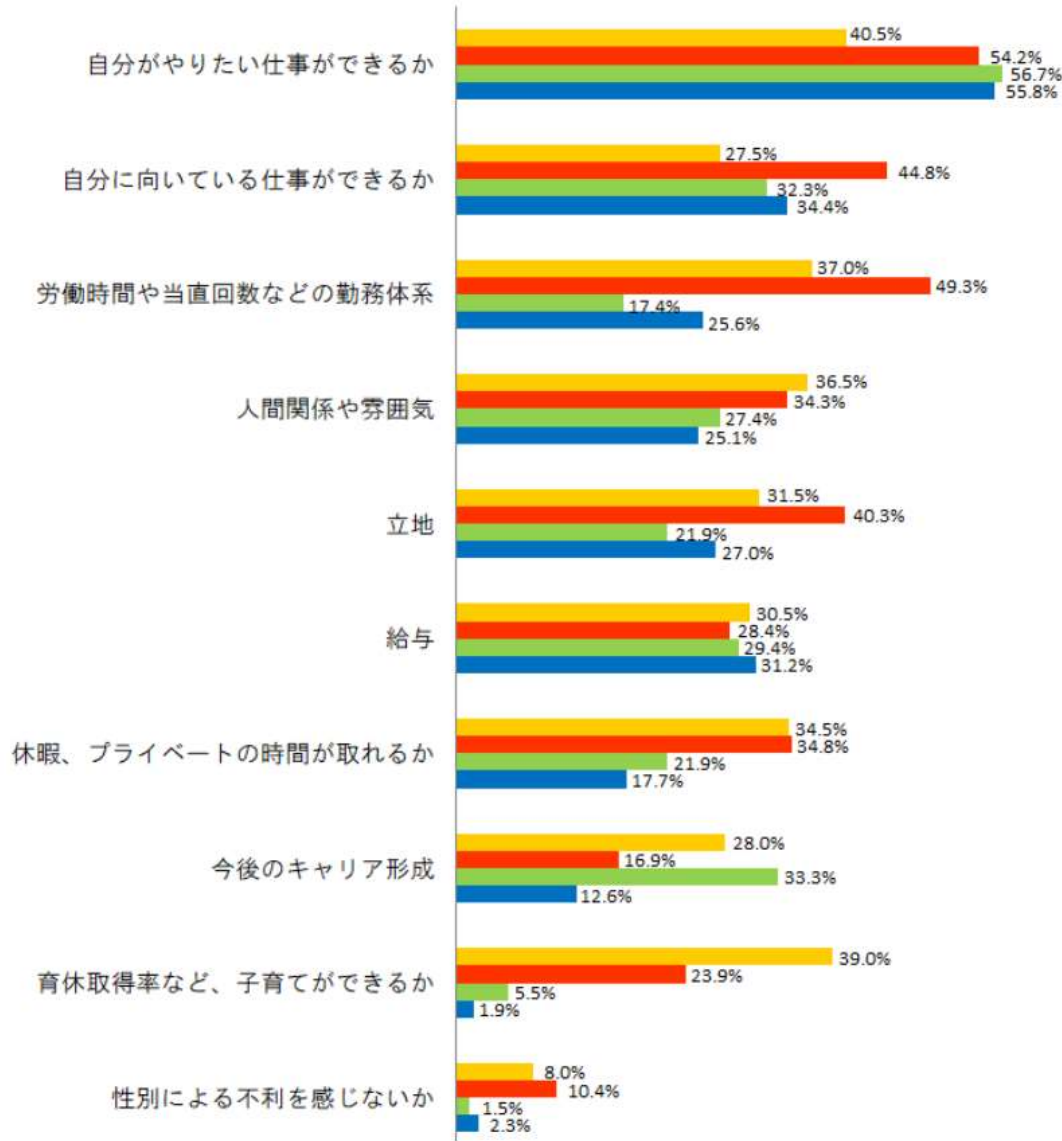


男性は、単純にやりたい仕事を選んでる

女性は、やりたい仕事を選んでいるが、同時にプライベート・育児・勤務条件についても考えている

現在の勤務先を選ぶ際に、重視した点は何ですか【複数選択可】

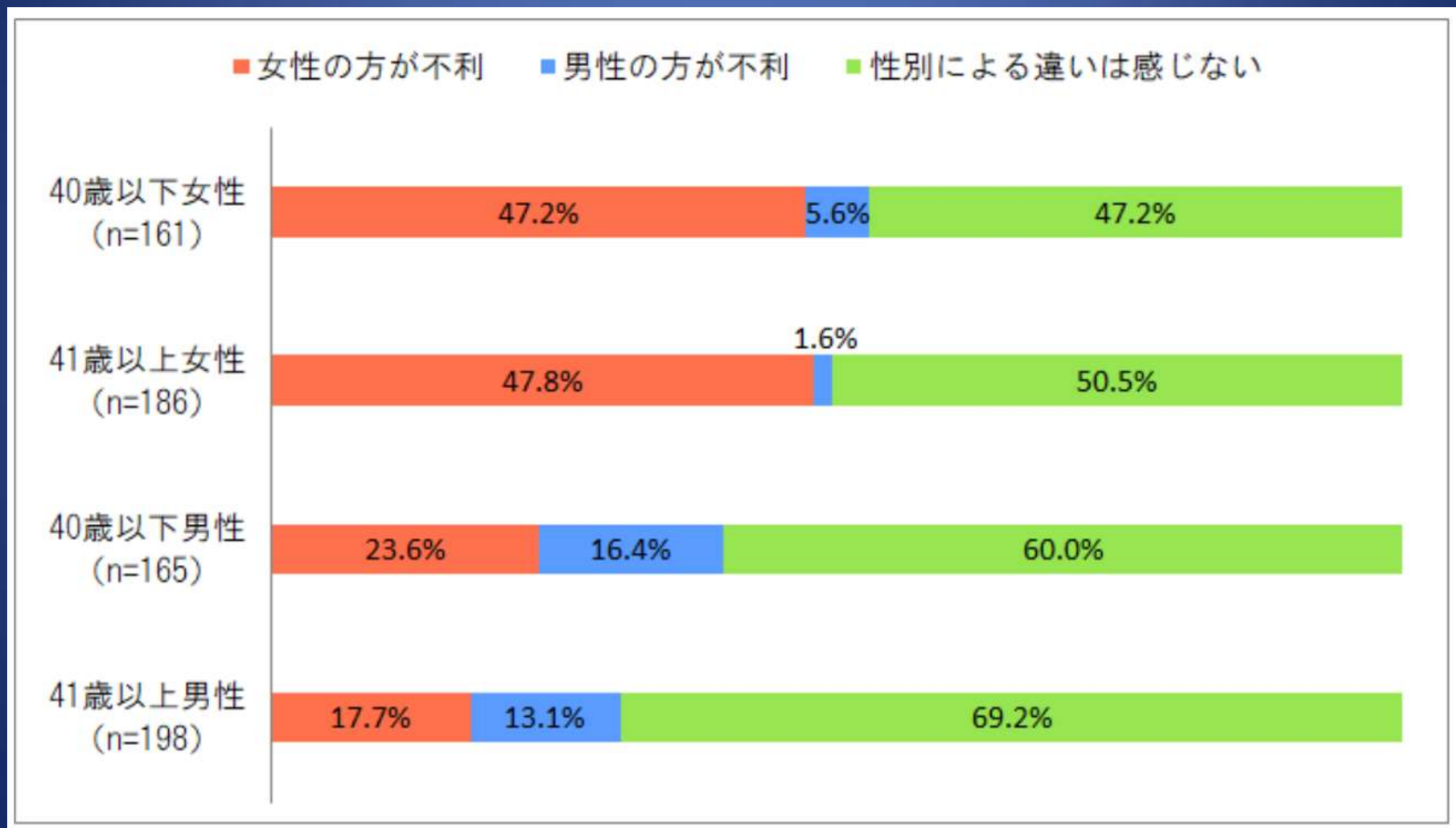
■40歳以下女性 (n=200) ■41歳以上女性 (n=201) ■40歳以下男性 (n=201) ■41歳以上男性 (n=215)



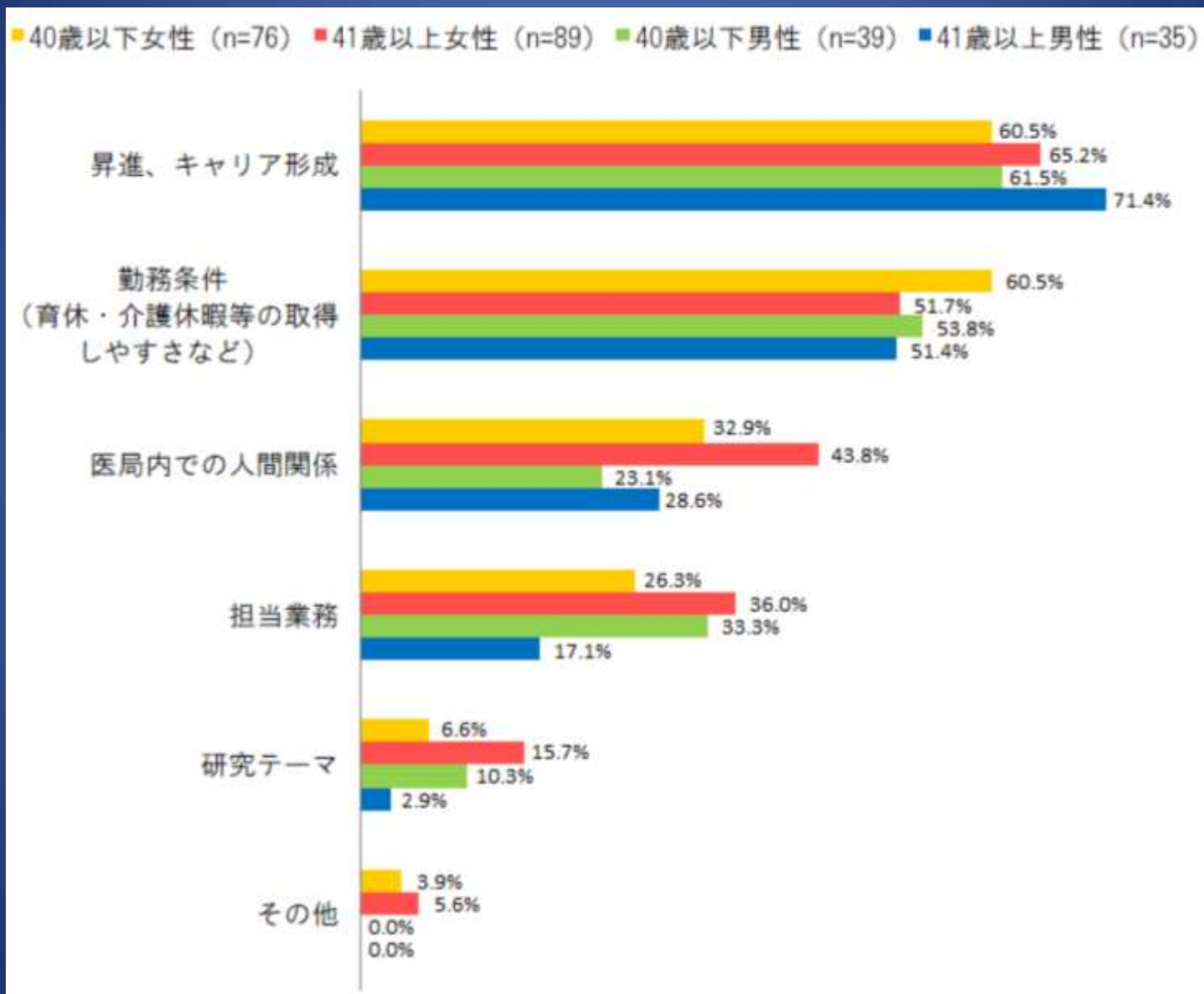
男性は、やりたい仕事と給与面で選んでいる

女性は、やりたい仕事も選んでいるが、それ以上に労働時間などの勤務条件を重視している。また同時にプライベート・育児についても考えている

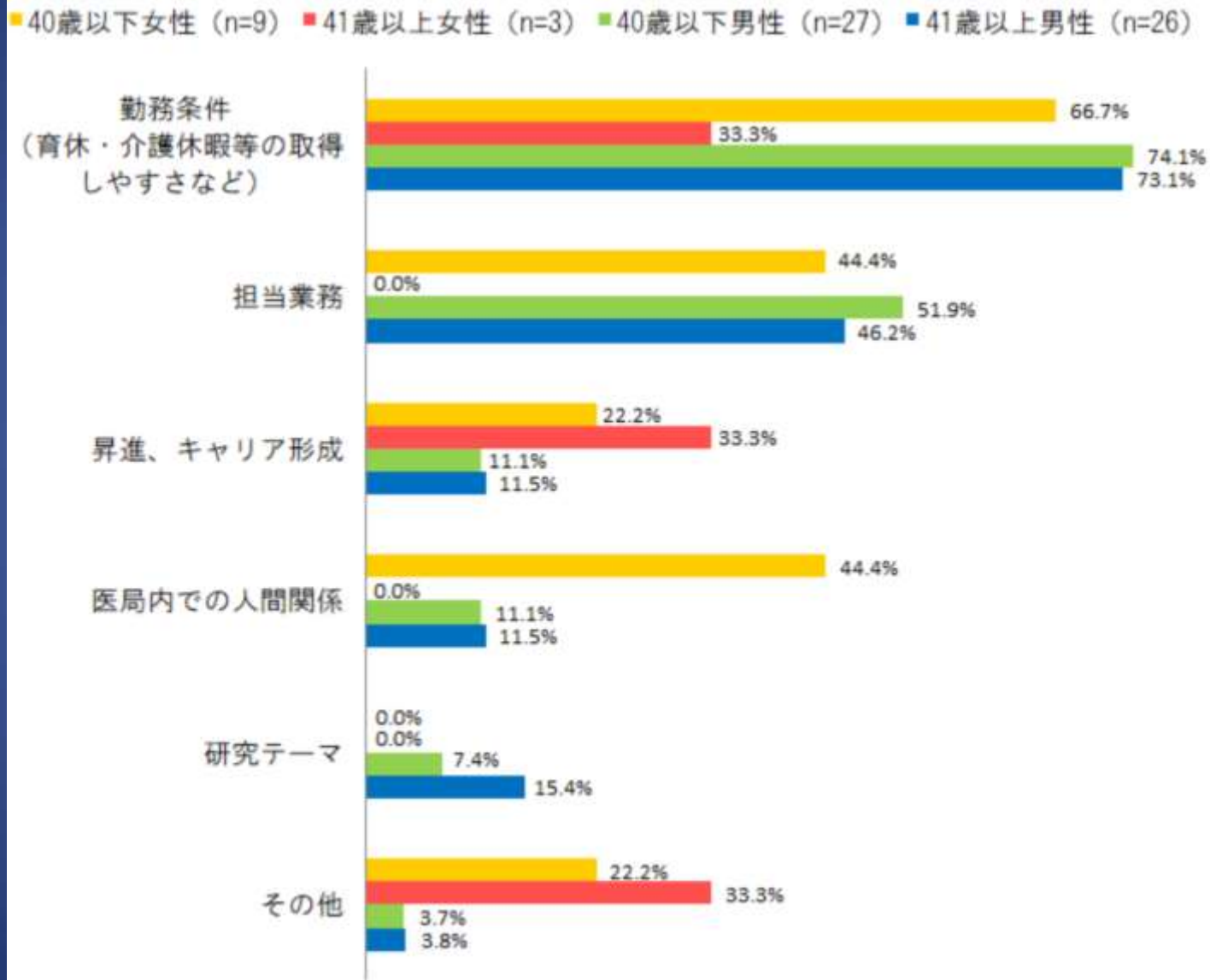
医局に所属する上で、性別によって不利だと感じたことはありませんか



どのような点で女性が不利だと感じましたか【複数選択可】



どのような点で男性が不利だと感じましたか【複数選択可】



ジェンダーフリーな働き方：理想と現実

理想

男女が共に全く均等に働く社会！
(男性にできないのは妊娠・出産だけ)

現実

女性ではなく、男性側・社会の考え方に問題がある
(特に女医さんが医者と結婚している場合)

+

医療業界だけではなく、日本全体で変わらなければ変われない
(糖尿病内科だけで変わると、、、)

+

今後は、介護ということを含めて男女ともに勤務について考えていく必要がある

糖尿病診療と研究での男女の活躍のためには

糖尿病内科を選択してくれる医師数の増加

安定した医局員数の確保：育児中女性の貢献大

女性のリーダー的存在が必要（教官へ女性登用）

医局の雰囲気・働きやすさの維持：

医局員がhappyと思えること

学生や研修医はよく観察している！

→医局員の増加につながる

男女間・女性間での相互理解が必要（親しき中にも礼儀あり）

ご清聴頂きありがとうございました